

# 政権末期に対日強硬的側面を見せた馬英九總統

防衛省防衛研究所主任研究官  
門間理良

## 日台の関係

### 馬政権が沖ノ鳥島を「岩」と表明

四月二十五日早朝、沖ノ鳥島周辺の日本の排他的経済水域で違法に操業していた台湾漁船「東聖吉十六号」(屏東県琉球区漁業組合所属。七九ト。台湾国籍船長一名、中国国籍およびインドネシア国籍乗組員九名)を海上保安庁の巡視船が拿捕した<sup>1</sup>。これに対して台湾外交部は抗議するとともに人員と船の即時釈放を日本側に呼びかけた。日本は単純な不法操業として事件処理を行い、罰金を納付すれば早ければ一週間で釈放されるとの日本側関係者の見方も台湾紙で報じられた<sup>2</sup>。船主によれば、日本側に納付した訴訟補償金は六百万円で、船長は四月二十六日に横浜で釈放された<sup>3</sup>。

この事態に対して馬英九總統は二回の国家安全会議ハイレベル会議を開き、外交部と駐日台北代表処が日本側に厳正に抗議する方針の他、海岸巡防署の巡視船と農業委員会の船を現場海域に派遣することを決定した<sup>4</sup>。同会議で、馬總統は沖

## ●4月の動向日誌

○6日、馬英九總統はアーミテージ元米国務副長官を団長とする訪問団と会見。  
○7日、馬英九總統はフィリピンのラモス元大統領と会見。太平島はフィリピンが主張するような岩礁ではなく島嶼であると説明。  
○9日、馬英九總統は東シナ海の彭佳嶼を視察し、記念碑の除幕式を行う。  
○11日、馬英九總統は交流協会の大橋光夫会長らの表敬訪問を受ける。／ケニアにて詐欺容疑で逮捕され無罪判決を受けた台湾人を中国大陸に強制連行したとして、行政院大陸委員会は中国側に厳重抗議。  
○16日、馬英九總統は熊本地震に五十万ドルの支援金を指示。  
○18日、ベルギーで開催のOECD鉄鋼委員会ハイレベル会合に中国側の圧力で台湾代表が参加できず。  
○19日、米下院の外交委員会は台湾関係法と六つの保証を米台関係の基礎とすることを確認する決議案を全会一致で可決。  
○25日、沖ノ鳥島近海で台湾船が海上保安庁に拿捕された事件と関連して馬英九總統は国家安全高層会議を開催。  
○27日、台湾漁船の拿捕と関連し馬英九總統は国家安全上層部会議で、公海上での操業の自由、日本の違法な権限拡大に対する反対、漁業者の権益保護強化を表明。  
○29日、林永棠外交部長は交流協会台北事務所の沼田幹夫代表を呼び、台湾漁船の拿捕事件につき厳重抗議。

ノ鳥島を「島ではなく岩礁」であり、日本は排他的経済水域を設定できないと主張した。これに対し、岸田外務大臣は二十八日の記者会見において、「台湾の独自の主張は受け入れられない」、「交流協会を通じて抗議した」と述べた。さらに四月二十九日午前、外交部の林永樂部長は交流協会台北事務所の沼田幹夫代表を外交部に呼び、正式に抗議するとともに中華民国（台湾）政府の立場を重ねて強調した。この中で、林部長は沼田代表に対し、「国連海洋法条約（UNCLOS）第二百一十一条が定める島嶼の定義に基づけば、『沖ノ鳥礁』は『岩礁』であって『島』ではないこと、九平方メートルに満たない空間は、『人間の居住又は独自の経済的生活を維持することができるといふ島の定義に合致しておらず、よって日本政府はそれを基点とする二百浬の排他的経済水域（EEZ）を主張できない」と説明。日本政府が「沖ノ鳥礁」を独自の定義で「島」とみなし、違法に権利を拡大して主張することは、「国連海洋法条約」第二百一十一条の規定に違反しており、「台湾政府は承認することができない」と述べた。これに対して沼田代表は、

## ASIA STREAM — 台湾

「沖ノ鳥島は同条約上、島としての地位が確立しており、台湾の主張は受け入れられない」と伝えた。

張善政行政院長は五月一日から一カ月間にわたり、同海域で海岸巡防署の巡視船が台湾漁船の護衛にあたる旨を明らかにした。海岸巡防署の発表によれば、五月十日、台湾の連合巡視護衛船隊は沖ノ鳥島西南方二百浬付近で漁獲作業中の台湾漁船の護衛についている。海上保安庁の巡視船四隻が台湾の船隊後方三〜八浬の海域で無線による警告を行っているが、衝突には至っていない。操業海域が沖ノ鳥島から二百浬付近であることから、台湾側もあるいは一定の配慮を見せているのかもしれない。

馬英九総統は琉球区漁業組合幹事長から得た情報として、これまでは沖ノ鳥島周辺海域での漁獲は満載になるまで七日を要していたが、現在は海上保安庁の妨害がないので四日で満載にできるようになったとの状況を明らかにし、海岸巡防署船艇の同海域派遣が台湾漁民だけでなく全世界の漁民の権益を守ったと自画賛した。

二十六日には国民党の洪秀柱主席も、

日本に強硬にあたるべきだと表明した。民進党は、①政府は全力で漁民のサポートを行い、わが国漁民の権益を確保すべし、②台日双方は漁業権に関して多数の交渉経験がある。政府はそのメカニズムを利用して、積極的に日本と意思疎通を図るべし、③双方がコンセンサスに達するまで、日本側に自制を要求する、④民進党が政権になったら、日本側との協議を通じて、わが国漁民の権益を確保する、との四つの声明を発表した。

今回の沖ノ鳥島周辺海域での案件については、東京外国語大学の小笠原欣幸准教授が分析を加えているので、ぜひ参照していただきたい。その分析の中で小笠原氏は、①台湾の新政権成立前の微妙なタイミングで漁船を拿捕する必要があったのか、②漁船拿捕は馬政権に主権擁護のパフォーマンス（＝騒ぎ）を起こす絶好の口実を与えた、と指摘している。そもそも馬総統は自らを「友日」派と述べているものの、そのパフォーマンスは基本的に大中華志向で反日的だった。二〇〇八年の総統就任直後の六月十日には、台湾の遊漁船「聯合号」が尖閣諸島の魚釣島領海内に侵入し、海上保安庁の巡視

馬英九總統の離島視察状況

所在海域	島名	視察時期	視察理由	訪問回数
台湾海峡	金門島	2016年4月29日	金門防衛指揮部の視察と国防アピール	17(9)
	馬祖列島	2015年9月24日	中秋節の部隊慰問。東引基地など4カ所を視察	6(4)
	澎湖島	2014年11月15日	交通建設状況(橋梁)の視察	10(10)
	烏坵	2008年9月7日	中秋節の部隊慰問と国防アピール	1(3)
南シナ海	太平島	2016年1月28日	記念碑除幕と太平島領有権、「南シナ海平和イニシアティブ」のアピール	1(1)
	東沙島	2008年9月10日	総統就任後の視察の一環と領有権のアピール	1(2)
	琉球嶼	2011年12月9日	地方視察の一環	1(4)
東シナ海	彭佳嶼	2016年4月9日	記念碑除幕と尖閣諸島領有権のアピール	2(1)
太平洋	龜山島	2016年5月13日	海巡署の活動と沖ノ鳥島周辺EEZが無効であるとのアピール	1(1)
	蘭嶼	2012年8月30日	台風被害の視察	1(1)
	綠島			1(2)

注：視察時期は最新のもの。琉球嶼と龜山島は台湾本島至近(概ね30km内)に位置する。訪問回数( )内は陳水扁總統の訪問回数を示す。

出所：「総統府プレスリリース」などを元に筆者作成。

船「こしき」と衝突して「聯合号」が沈没するという事件が発生した。その際、馬總統は台湾の民間の抗議船「全家福六号」に海岸巡防署の巡視船九隻を護衛につけただけでなく、台湾巡視船が相次いで日本領海を侵犯する事態にまで悪化した。抗日戦争勝利七十周年となった二〇一五年も、馬總統の指示で閱兵式を行ったり、抗日劇を上演させたりしている。筆者は以前、本誌で馬總統は「本質的には日本嫌い」との見解を提起したが、今回の事案を見て、その印象をより強くしている。

離島視察を行った馬總統

また、退任を前にした馬英九總統は台湾が実効支配する島々を精力的に視察している(表参照)。今年に入って、太平島・金門島・彭佳嶼を相次いで視察した馬總統は、五月十三日に宜蘭沖に浮かぶ小島、龜山島を初視察した。同島は台湾本島から十分に目視が可能な近距離にある島で、海岸巡防署第十二大隊が駐在している。馬總統には龔光宇海岸巡防署副署長を初めとする同署の幹部の他、熊光華・蕭旭岑の二名の総統府副秘書長や袁

桂笙国家安全会議諮問委員らが随行している。龜山島そのものよりも、沖ノ鳥島を見据えた視察だったと解釈した方が良いだろう。

馬英九總統の離島訪問と陳水扁總統のそれを比較すると、陳總統の金門・馬祖視察が計十三回であるのに対し、馬總統の金門・馬祖の視察が計二十三回と十回も多いのが目につく。總統の視察ともなればさまざまな事情を勘案して決定されるであろうが、總統個人の問題意識や志向も十分に加味されるだろう。その結果が八年の任期中に十回の差となって現れたと見るべきではないか。一方で、陳總統が烏坵を三度視察した理由をはっきりしない。表に示した離島の中で、烏坵は最も不便な場所にある。だからこそ陳總統は烏坵を訪れて、軍に対するアピールを行ったとも推測できる。彭佳嶼に関しては、陳總統は一回だけ(しかし、現職總統としては初視察)だが、馬總統は二回視察している。彭佳嶼は地理的に尖閣諸島を意識する海域に所在しているだけに、尖閣諸島の領有権主張について強硬な馬總統としてはアピールにちょうどよい島と言える。龜山島に関しては、所在

する海域・訪問時期・同島での発言内容などから、沖ノ島島での台湾漁船拿捕がきっかけで視察が組まれたと考えられる。緑島に陳總統が二度行っているのは、同島に政治犯収容施設があり、民進黨関係者も多くそこに収容されていたからである。<sup>17</sup>

なお、太平島については、馬總統だけでなくさまざまな人物を招いて政府は視察させている。五月五日には、郝柏村・毛治国の両元行政院長、胡為真・蘇起の両元国家安全會議秘書長など約二十名の元老がC-130輸送機で太平島を視察に訪れた。<sup>18</sup> 一行は太平島で埠頭・灯台・太陽光発電システム・病院・農場などを視察し、現地で取れた食材と井戸から湧く淡水を使った料理を楽しんだという。これらの視察を通じて、台湾の太平島の実効支配と、実際に人間が生活可能な島であることをアピールする狙いがある。

## 台湾の内政

林全内閣のメンバーが出そろろう

五月号以降で新たに明らかとなった林

# ASIA STREAM — 台湾

全内閣のメンバーは次の通りである。<sup>19</sup> 計五回にわたる内閣名簿発表によって、主要閣僚は出そろった。

内政部長…

葉俊榮（台湾大学法律系教授）

交通部長…

賀陳旦（台北新交通システム公司董事長）

教育部長…

潘文忠（台中市副市長）

文化部長…鄭麗君（立法委員）

海岸巡防署長…李仲威（元海軍副司令）

退輔會主任委員…李翔宙（元陸軍司令）

原子力委員會主任委員…

謝曉星（中山大學機械電機工程系教授）

故宮博物院長…

林正儀（奇美博物館董事）

注目されるのは、海岸巡防署のトップに初めて海軍出身者が就任することだろう。李仲威氏は李傑元国防部長に目をかけられた人物で、海軍艦隊指揮官や海軍副司令を務め、海軍司令の座を争ったが、それがならず副司令で退役したと報じられている。<sup>20</sup> 海岸巡防署の人材は元々海軍士官学校出身者で占められている。また、特に馬英九政権になってからの海岸巡防

署は海軍と連動した動きを見せるようになっていた。<sup>21</sup> 海軍出身の李氏が署長に就任し、その流れを維持するという見方もできる。ただ、蔡英文政権は馬英九政権のように日本に対して強硬な態度に出ることはあまりないと思われる。李仲威氏は馬英九政権下で馬總統の政治上のパフォーマンスに多用されてきた海岸巡防署を、課せられたオペレーションを厳格に実行できる組織にすることを期待されているように思われる。

李翔宙氏は陸軍司令や国防部副部長を経て、国家安全局長に就いていた当時、口腔癌を患っていることを公表し、治療のため辞任していた。<sup>22</sup> 今回の人事発表とその時の写真を見るに、癌治療に成功したものと思われる。このような経歴をもつ人物が、間を置いているにせよ退輔會（退除役將兵輔導委員會）主任委員に就くのは、一般的には優遇されているとは言えないかも知れないが、病から明けて間もないことや同主任委員を二度も務めた後に国防部長になった高華柱氏の例もある。また、国防部長に就任する馮世寬氏（元空軍二級上將）は閣僚最高齢（七十一歳）であり、早めの交代の可能性も

ある。なによりも李翔宙氏への評価はかなり高かった。良い健康状態を維持できれば、「次」もあるかもしれない。なお、退輔会主任委員の人選に関しては、発表明日まで楊天驢元陸軍司令の名前が挙がっていたが、何らかの理由により土壇場で差し替えられたようだ。

政務次長や副主任委員という副大臣クラスの人選も発表されているが、ここでは外交・中台関係部門について紹介しておく。外交部の侯次長は外交部生抜きでスパニッシュスクール出身者である。大陸委員会の特任副主任委員となる林正義氏は、米中台関係の専門家で温厚な人物である。

外交部政務次長・侯清山（留任）  
同・

呉志中（東呉大学政治系教授）  
大陸委員会特任副主任委員・

林正義（中央研究院欧米研究所研究員）

同副主任委員・

邱垂正（金門大学国際・大陸事務学系副教授）

## 張善政内閣が総辞職を表明

本年二月一日の立法院新会期開始に合わせて成立していた張善政内閣が、政権の引渡しまであと一週間となった五月十二日、総辞職を表明した。各閣僚は民進黨政権発足まで引き続き現職に留まるものの、重大な案件は処理せずに新政権への引き継ぎに専念するという。張内閣は、総統選挙・立法委員選挙の敗北に伴う毛治国内閣の総辞職に伴って、当時副院長の任にあった無党籍の張氏がトップに立つて引き継いだ残務処理内閣としての性格が強いものだった。立法院も五月十九日までは野党である民進黨が多数を占めている状態であり、無難な政権運営と順調な委譲が求められていて、張内閣はそもそも政権として期待される立場になかった。その割には、台南地震、沖ノ鳥島周辺の排他的経済水域における台湾漁船拿捕事件、台湾国籍を持つ人々がケニアから中国へ強制移送された事件への対応など、イレギュラーな事件が立て続けに発生したのは不幸だった。

## 国家安全局長に

### 元国家安全会議副秘書長が就任

蔡英文政権の下での初代国家安全局長に、第二期陳水扁政権で国家安全会議副秘書長を務めた王西田氏が就任することが内定したと台湾紙が報じている。王氏は二〇〇四年に国家安全会議の副秘書長に就任すると、主として中国情勢の分析を担当した。王氏は情報幹部出身で、民進黨政権当時はキーパーソンだった邱義仁氏・柯承亨氏との関係も良好だった。

## ●注

- 1 「漁船東聖吉十六號在公海被日本扣押」『自由時報（電子版）』二〇一六年四月二十五日。
- 2 「若依『單純非法捕魚』處理 日方：被捕台船最快一週釋放」『自由時報（電子版）』二〇一六年四月二十六日。
- 3 「東聖吉繳百七十六萬保證金 日釋放人船」『自由時報（電子版）』二〇一六年四月二十七日。
- 4 「日扣押台灣漁船 馬中午將再召開國安高層會議」『自由時報（電子版）』二〇一六年四月二十七日。
- 5 「台灣總統、沖ノ鳥島『岩』と主張 次期政権を牽制か」『朝日新聞DIGITAL』二〇一六年四月二十八日。
- 6 外務省HP「岸田外務大臣会見記録」二〇一六年四月二十八日。
- 7 「外交部、漁船拿捕で日本の代表を呼び抗議」

- 『台湾週報(電子版)』二〇一六年五月二日。
- 8 「台湾 日本の代表呼び出し」交流協会台北事務所 沖ノ島島巡り抗議『読売新聞』二〇一六年四月三十日。
- 9 「沖之島礁争議 張揆：明起護漁一個月」『自由時報(電子版)』二〇一六年四月三十日。
- 10 海岸巡防署プレスリリース「沖之島礁捕魚作業、巡護船隊戒護安全」二〇一六年五月十日。
- 11 總統府プレスリリース「總統視察龜山島四〇一高地周邊設施、慰訪龜山島安檢所海巡幹部、並與『海巡署岸巡第一二大隊』同仁餐敘」二〇一六年五月十三日。
- 12 「日扣押台灣漁船要保證金 洪秀柱：強烈抗議」『自由時報(電子版)』二〇一六年四月二十七日。
- 13 「回應沖之島漁權 蔡英文握拳：全力捍衛」『自由時報(電子版)』二〇一六年四月三十日。
- 14 小笠原欣幸「沖ノ島島沖台灣漁船拿捕事件——日台關係に激震——」OGASAWARA HOME PAGE 二〇一六年五月五日。<<http://www.tihs.ac.jp/ts/personal/ogasawara/>>
- 15 本誌二〇一五年十二月号の拙稿参照。
- 16 同右。
- 17 陳總統自身は綠島ではなく別の場所に八カ月間収監されていた。
- 18 「歴任行政院安首長訪太平洋島 海巡署：強化南海主權論述」『自由時報(電子版)』二〇一六年五月五日、海岸巡防署プレスリリース「歴任行政院及國安團隊首長訪視南沙太平洋島」二〇一六年五月五日。
- 19 「新人事拍板！鄭麗君接文化部長、林正儀任故宮院長」『中時電子報』二〇一六年四月二十日、「林内閣新人事 葉俊榮出任内政部長 原委會主委謝曉星」『中時電子報』二〇一六年四月二十八日。
- 20 「新任海巡署長李仲威 戰術專家」『中時電子報』

# ASIA STREAM — 台湾

- 二〇一六年四月二十八日。
- 21 たとえば、二〇一五年十一月には、馬英九總統觀閲の下で国防部と海岸巡防署が漁船護衛のための共同演習を高雄沖で実施している（護漁、反恐、馬英九首次登艦校閲）『自由時報(電子版)』二〇一五年十一月二十一日。
- 22 「李翔宙口腔癌痊癒 出任退輔會主委」『中時電子報』二〇一六年四月二十八日。
- 23 「第四波内閣人事 楊天嘯、李文忠出任退輔會正副主委」『中時電子報』二〇一六年四月十八日。
- 24 「蔡英文左右手 林碧炤 總統府秘書長 吳釗燮 國安會秘書長」『中國時報(電子版)』二〇一六年四月十六日。
- 25 台灣外交部の「首長簡介」の項目参照。
- 26 「國安局長 内定前國安會副秘書長王西田」『自由時報(電子版)』二〇一六年五月十七日。
- \* 本稿は筆者の個人的見解をまとめたもので、所屬機関とは関係ありません。



## 投稿規定

本誌では、投稿原稿を随時募集しております。投稿をご希望の方は、ご自身の略歴と注記を含め一万字〜一万二千字の範囲で打出し原稿(40字×30行)とデータファイル(MS-Word、一太郎のいずれかとする)をご送付ください。投稿いただく原稿は未発表のものに限り、同一原稿を本誌以外に同時に投稿することはお断りさせていただきます。なお投稿原稿につきましては、本会が外部より選任いたしました『東亜』編集委員がレフェリーとして査読を行い、その審査結果を考慮した上で掲載の採否を決定させていただきます。掲載された原稿につきましては、本誌規定の原稿料をお支払いいたします。ただし、著作権は当会に属します。詳細は本誌編集部までお問い合わせください。

お預かりしました個人情報は法令及び当会規則にしたがって厳正に管理いたします。